参加無料
先着130名様

RYUKOKU UNIVERSITY

世界仏教文化研究センター応用研究部門
社会的孤立回復支援班

支援現場に来談される当事者やご家族は、必ずしも来談意欲が高いとは限りません。
特に、支援機関の特性によっては、来談意欲が低いまま来所されるケースも少なくありません。
本企画では、そのような来談者に対する支援のあり方について考える機会を提供します。

日時：２０２５年１０月２６日（日）１３：００～１６：００
場所：龍谷大学大宮学舎東黌３０１教室
対象：公認心理師、臨床心理士など援助職の方

講演

13:00～14:00

相談意欲の低い来談者への解決志向アプローチ
—Solution-Focused Approach—

講師：田中ひな子（原宿カウンセリングセンター所長）

＜講師紹介＞
練馬区教育相談室、嗜癖問題臨床研究所付属原宿相談室、北里大学看護学部非常勤講師を経て、1995年原宿カウンセリングセンター勤務。日本ブリーフサイコセラピー学会常任理事、精神保健福祉センター、男女共同参画センター、保健所、裁判所職員総合研修所、法務総合研究所、保護観察所、日本産業カウンセラー協会等で講師を務める。

シンポジウム

14:15～16:00

相談意欲の低い来談者への対応の工夫

シンポジスト：中川貴美（京都家庭裁判所）
吉村拓美（京都府福知山児童相談所）
田上貢（大阪府ひきこもり地域支援センター、大阪府スクールカウンセラー）
指定討論：田中ひな子、吉川悟（龍谷大学）
司会：赤津玲子（龍谷大学）

＜問い合わせ事務局＞
龍谷大学心理学部/赤津玲子研究室
〒600-8268京都市下京区大工町125-1
a-reiko@psy.ryukoku.ac.jp

お申し込みはこちら

https://forms.gle/eqwBUHHhPQmPMnrs8